

# 六ヶ所村こども読書活動推進計画 (第三次)

未来を支える人と文化を育てる

令和8年3月

六ヶ所村教育委員会



はじめに

日頃より、六ヶ所村の教育行政にご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。本村は『第5次六ヶ所村総合振興計画』を基に、次の10年に向けて「世界に開かれ すべての人が輝く 未来創造のまち」を目指しています。そのなかでも、地域の未来を担うこどもたちの成長と多様な文化の継承・創造を支え、未来を支える人と文化を育てることを積極的に推進しているところです。

国は、こどもの読書活動推進のため、平成12年を『子ども読書年』とする決議を行い、それを契機に平成13年12月に『子どもの読書活動の推進に関する法律』が公布されました。また、この法律に基づき平成14年に『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』を策定、そして令和5年3月には、その第5次計画を策定して現在に至っています。

本村においては、こどもの読書環境の整備や家庭・地域・学校等を通じた取組を進めるため、平成21年度に『六ヶ所村子どもの読書推進計画(第1次)』、平成26年度に第2次計画を策定し、様々な事業に取り組んでまいりました。

このたび、第2次計画から10年が経過したことを受け、国や県の取組を参考にしつつ、こどもたちを取り巻く社会状況の変化も考慮しながら、こどもたちの現状と課題に触れ、未来を担うこどもたちのより豊かな読書活動を、地域、学校、家庭で連携し推進していけるように第3次計画を策定いたしました。未来あるすべてのこどもたちが、たくさんの本との出会いによって心豊かに成長し、読書により培われた知識や能力を活かし、世界に大きく羽ばたいていくことを願い、本計画を推進して参ります。

結びに、本計画策定にあたりまして、貴重なご意見やご提言をいただきました六ヶ所村図書館協議会の委員の皆様、アンケート等を通じてご協力いただきました村民の皆様、その他ご協力いただきましたすべての皆様に心から感謝を申し上げますとともに、子供たちの限りない飛躍と皆様方のさらなるご健勝ご多幸を祈念いたしまして、巻頭のあいさつといたします。

令和8年3月

六ヶ所村教育委員会

教育長 奈良岡 臣哉

## — 目次 —

### 第1章 計画策定について

- 1 計画策定の趣旨、経緯…………… 2
- 2 計画の対象と期間…………… 2
- 3 読書活動推進計画の位置づけと生涯学習とのつながり…………… 3

### 第2章 六ヶ所村における取組と課題

- 《第4次生涯学習中期推進計画体系図から見た図書館事業》…………… 6
- 1 取組状況…………… 7
  - 2 課題…………… 11
    - (1) 学校図書館と公共図書館の連携…………… 11
    - (2) 読み聞かせボランティアの育成と支援…………… 11
    - (3) 幼少期からの家庭での読み聞かせの浸透…………… 11

### 第3章 基本方針

- 1 デジタル化社会に対応した読書環境の整備…………… 14
- 2 多様な子どもたちの読書機会の確保…………… 14
- 3 こどもの視点に立った読書活動の推進…………… 15
  - 【読書に関する発達段階ごとの特徴】…………… 15

平成30年「子どもの読書活動推進に関する有識者会議論点まとめより」

### 第4章 こどもの読書活動の推進方策

- 1 家庭…………… 18
- 2 図書館の役割…………… 18
- 3 図書館の取組…………… 19
- 4 学校…………… 19

### 令和7年度六ヶ所村こどもの読書活動推進に関する状況調査…………… 22

- 1 小学2年生、5年生、中学2年生、高校2年生アンケート、分析…………… 23
- 2 こども園4歳児保護者アンケート、分析…………… 30
- 3 学校図書館担当者アンケート、分析…………… 33
- 4 図書館協議会委員からの意見まとめ…………… 35

### 《資料》

- ・こどもの読書推進計画について(国、青森県、六ヶ所村)…………… 38
- ・六ヶ所村の小学校、中学校、高等学校創立年表…………… 39
- ・村民図書館開館から現在までの所蔵に対する児童書の割合…………… 40
- ・学校図書館と村内各地区配本回収サービス…………… 42
- ・図書館協議会委員名簿…………… 44

## 第1章 計画策定について

---

## 第1章 計画策定について

### 1. 計画策定の趣旨、経緯

こどもの読書活動は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」(こどもの読書活動の推進に関する法律第2条)であり、未来をつくるこどもたちの読書環境を整備していかなければなりません。

国は平成30年、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)を策定しました。そこには、学習指導要領の見直しを図り、高等学校、幼稚園、特別支援学校幼稚部について告示しています。そして、平成元年には視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する法律(以下「読書バリアフリー法」という。)を施行しました。また、コロナ禍を経て子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第五次)を策定しています。

六ヶ所村は平成27年に、六ヶ所村こどもの読書活動推進計画(第二次)を策定しました。その後、社会情勢の大幅な変化や、新型コロナウイルス感染症の流行、GIGAスクール構想による学校のICT環境の整備等で、こどもたちを取り巻く環境が大きく変化しました。そのため、ここに新たな村の推進計画を策定するものです。

### 2. 計画の対象と期間

○本計画の対象である「こども」は0歳から18歳までとします。

○本計画は令和8年度から令和12年度までのおおむね5年間にわたる施策の基本的方向を示すものです。

### 3. 読書活動推進計画の位置づけと生涯学習とのつながり

読書をするということは、イコール生涯学習につながります。

この生涯学習とは、乳幼児期から高齢期まで生涯にわたり、自己の充実や生活向上を目的として、自発的に行う学習活動のことです。家庭教育、学校教育、社会教育といった従来の教育だけでなく、趣味、スポーツ、ボランティア活動、企業内教育など、人生のあらゆる機会学び続けることを指します。

#### 《生涯学習の特徴》

- 自発性と継続性： 本人の意思に基づき、自らが選んだ方法で生涯にわたって行います。
- 多様な学習機会： 学校だけでなく、職場、地域、家庭、趣味、文化活動など、様々な場面が含まれます。
- 個人の充実： 自己啓発やスキルアップ、趣味などを通じて人生を豊かにすることをめざします。
- 社会への貢献： 新しい知識や技術を習得し、社会の変化に対応するだけでなく、地域社会の活性化にもつながります。

#### 《生涯学習でできること》

- キャリアアップ： 仕事に役立つ知識やスキルを習得し、キャリアを形成するのに役立ちます。
- 自己実現： 趣味や教養を深め、視野を広げ、人生の楽しみや生きがいを見つけることができます。
- 人間関係の構築： サークル活動などを通じて、新たな人々と出会い、交流を深めます。
- 社会参加： 地域の活動やボランティアに参加することで、社会とのつながりを持ち、貢献することができます。
- コミュニティの形成： 趣味サークルや地域づくりに参加することで、コミュニティの形成となります。

《具体的な学習の例》

仕事関連の学習：社会人の学び直しや仕事に必要なスキルアップ、資格の取得。

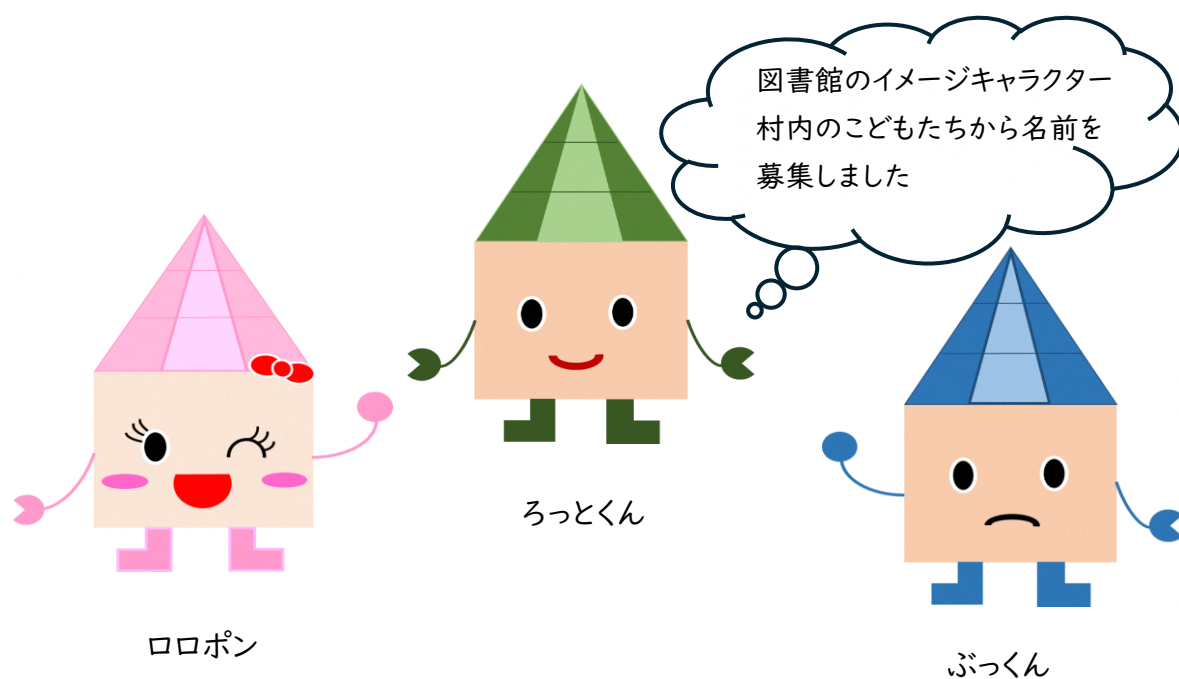
趣味や自己啓発：語学や歴史を学ぶ、絵画や音楽、料理や健康に関する知識を深める。

地域活動や文化：ボランティア活動に参加する、地域のイベントや文化活動に参加する。図書館で本を読む。

健康やスポーツ：スポーツを楽しむ、健康に関する知識を学ぶ。

このように人は具体的な学習を実行する前や、その途中において自分の知識を深めたいと考え行動します。そのためにはまず、情報を収集することが必要です。インターネット等を利用するのはもちろん「図書館で情報を集める」ことを目的に来館し、図書館員に相談して資料を集めること（レファレンスサービス）を積極的に利用してほしいと考えます。これらを含めた図書館の利活用をこどもの期間に習得することは、やがて生涯学習を豊かにすることにつながります。

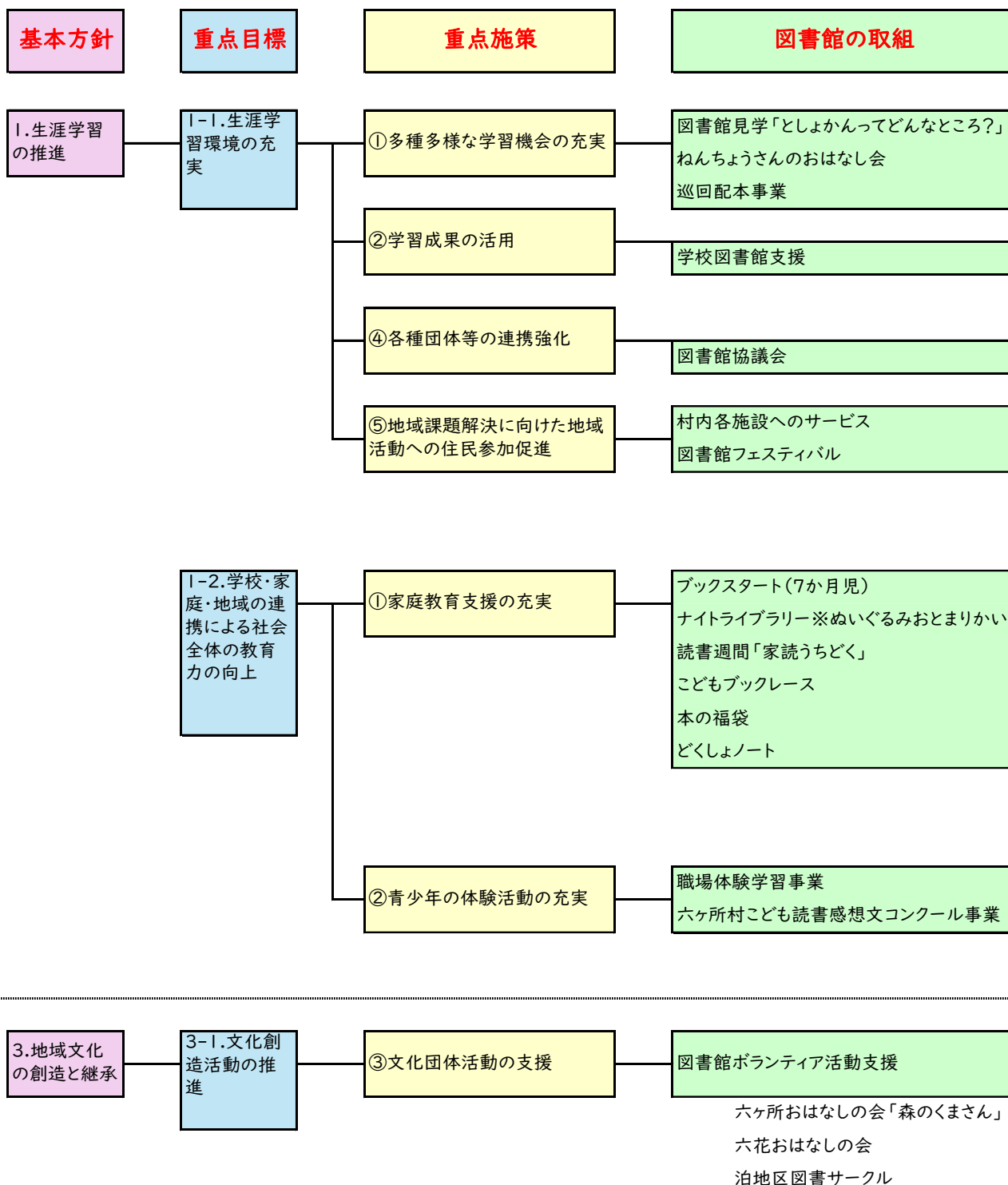
生涯学習とは、学習者が自らの意思で、自分に合った学び方やテーマを選ぶこと（主体性）が特徴で乳幼児期から高齢期まで、一生にわたって学習を続けることができます。そして日常生活のあらゆる場面が学習の場となり、自分の人生をより豊かにし、やがては社会をよりよくするためにも役立つことを体験してほしいと考えます。



## 第2章 六ヶ所村における取組と課題

---

《第4次生涯学習中期推進計画体系図から見た図書館事業》



## 第2章 六ヶ所村における取組と課題

### 1. 取組状況

#### 基本方針:生涯学習の推進

#### 重点目標1-1生涯学習環境の充実

#### 《重点施策①多様な学習機会の充実》

##### ・「としょかんってどんなところ？」 平成21年度開始

村内こども園の5歳児を招き、館内利用マナーを学び、おはなし会を体験し、自由に本を選んで読むことで、図書館とはどんなところなのかを学び、小学1年生から図書利用カードを持つことを説明する企画。

##### ・ねんちょうさんのおはなし会 令和元年度開始

村内こども園の5歳児を年に3回招き、おはなし会(図書館ボランティア含む)やゲームを楽しみ、図書館を身近に感じさせるよう幼少期からの利用向上を図る企画。

##### ・巡回配本事業 平成13年度開始

年間900冊から2900冊を司書が選書して村内こども園、小学校、中学校、放課後塾に配本する事業。

#### 《重点施策②学習成果の活用》

##### ・学校図書館支援 平成21年度開始

村内の小、中学校に、図書館から支援してほしいことを伺い、学校図書館の蔵書点検をはじめ、資料処分等の見極め、配置換え、新規購入本のブックカバー付けなど、様々な要望に応じている。また、小学校から公共施設見学の依頼を受け入れ、来館時には質疑応答などに対応している。

#### 《重点施策④各種団体等の連携強化》

##### ・図書館協議会 平成9年度開始

図書館の年間事業について協議会を開催している。また、平成21年度から「六ヶ所村子ども読書感想文コンクール」を開始したため、委員は応募者の作品を評価する審査員として、村のこどもたちの関心を探り、育成に携わっている。

## 《重点施策⑤地域課題解決に向けた地域活動への住民参加促進》

### ・村内各施設へのサービス

平成 9 年度開始

村内各地区公民館、出張所に設置の返却専用ブックポストに入っている資料を適宜回収している。

#### (返却専用ブックポスト設置場所)

- 泊地区ふれあいセンター：浴場玄関内 9:00～21:00 (毎週火曜定休)
- 千歳平地区公民館：玄関風除室内 24 時間返却可能
- 平沼出張所：玄関前 24 時間返却可能

#### (利用者の要望に応じ、下記地区へ配達。受け取りは下記施設の開館時間内可能)

- 泊地区ふれあいセンター
- 千歳平地区公民館
- 平沼出張所

### ・図書館フェスティバル

(平成 10 年度工作教室として開始)

当初、村民文化祭会場内で工作教室から始めた事業で、所蔵資料の中から工作の本を選び、無料で体験できる企画としてスタート。

平成 20 年度からは事業名を変更し、おはなし会やかかるた遊び、縁日遊びなどを取り入れ、規模を拡大。また、村内の中学、高校から工作作業やおはなし会の読み手になる生徒を募集し、図書館職員と図書館ボランティアを含め 10 人ほどで開催している。文化祭来場者や村民との交流を深め、世代間交流の場になる企画になっている。

## 重点目標1-2学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上

### 《重点施策①家庭教育支援の充実》

#### ・ブックスタート(7か月児)

平成 22 年度開始

開始から令和2年までは村の乳幼児健診で、絵本数冊の読みきかせや図書館で開催するおはなし会を紹介。令和3年からは「7か月児健診」に集まった保護者と乳幼児に絵本を開く楽しみを体験してもらうため、「ブックスタートパック」の紹介をしている。図書館に来館した時に、司書や図書館ボランティアの読み聞かせを体験し(電話予約制)、好みの絵本1冊と、図書館オリジナルバックをプレゼントする。

また、開始当初から県が作成している読書啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」を手渡し、家庭での読み聞かせに役立てるよう促している。

・ナイトライブラリー（ぬいぐるみおとまりかい） ※令和3年、4年、5年度実施

閉館後の図書館にお気に入りのぬいぐるみと親子で来館し、図書館ボランティアによるおはなし会を体験した後、ぬいぐるみだけ図書館に預けて帰宅。職員は夜の間ぬいぐるみが図書館で過ごした様子を写真に撮り、フォトブックを作成。翌日参加者に来館してもらい、ぬいぐるみが選んだとして絵本を貸出する企画。対象は小学校低学年以下。

・ナイトライブラリー（夜のとしょかん探検） ※令和6年、7年度実施

閉館後の図書館に親子で来館し、図書館ボランティアによるおはなし会などを体験した後、本にまつわるクイズやレファレンスをゲーム感覚で体験する企画。対象は小学生。

・読書週間「家読うちどく」 平成9年度開始

全国、県内で毎年同時開催する「読書週間期間」に、様々な関連資料の展示を行っており、期間中は除籍したりサイクル本を村民に提供している。令和3年度からは、家族で同じ本を読み、内容について話し合い、感想を記入する「家読うちどく」カードを募集し、読んだ本と一緒に展示する企画を開催。

- ① こどもの読書週間 4/23～5/12
- ② 秋の読書週間 10/27～11/9
- ③ あおもり冬の読書週間 1/5～3/31

・こどもブックレース 平成13年度開始

期間中に本を1日5冊以内で借り、その数に応じてスタンプをためていく。12歳までは目標30冊、18歳までは目標15冊をめざす企画。達成したこどもはプレゼントを受け取れる。夏季：7/1～9/30、冬季：1/5～3/31

・本の福袋 令和4年度開始

司書はテーマに沿った本や年齢に合わせた本を3冊選書し、どんな本が入っているかは見えないよう「紙袋」に入れて貸出する企画。赤ちゃん向けから小学低学年、高学年向け、大人向けなどに分けて、村内の特産品をプレゼントとして同封し貸出する企画。

・どくしょノート

平成 29 年度開始

図書館から遠い地区に住んでいることのために企画したもので、年間を通して読んだ本を記録するノート。本の題名を記入し、借りた冊数のスタンプをためて 100 冊達成ごとにプレゼントを受け取れる。

・放課後塾どくしょノート

令和元年～令和6年度

年間を通して読んだ本を記録するノート。本の題名を記入し、借りた本の数のスタンプをためて 100 冊達成ごとにプレゼントを受け取れる。対象は泊小、南小、千歳平小の放課後塾の児童。

《重点施策②青少年の体験活動の充実》

・職場体験学習事業

平成 9 年度開始

村内中学生と高校生を対象として、接客、読み聞かせ体験、レファレンス体験や展示コーナー飾りなど様々な図書館業務を体験する機会を提供している。体験者には「図書館フェスティバル」への参加を勧めている。

・六ヶ所村子ども読書感想文コンクール事業

平成 21 年度開始

読書後の感動を文章にして評価されることで、読書への意欲を高めさせ、子どもたちの育成に携わる企画。村内の小学生、中学生の希望者を対象とし、応募者には参加賞、受賞者には賞状、副賞を進呈している。また、受賞者を村の広報や村の自主放送で紹介し、村民文化祭では最優秀賞作品を展示している。

基本方針:地域文化の創造と継承

重点目標3-1.文化創造活動の推進

《重点施策③文化団体活動の支援》

・図書館ボランティア活動支援 登録 3 団体

村内各地区小学校の朝読書支援、放課後塾出張おはなし会、こども園出張おはなし会、福祉施設出張おはなし会などの活動を支援。

その他、館内定期開催の「にちようびのおはなし会」の他、「夏のおはなし会」、「ねんちようさんのおはなし会」などを共同で開催している。

六ヶ所おはなしの会「森のくまさん」	平成 15 年結成
六花おはなしの会	平成 22 年結成
泊地区図書サークル	平成 23 年結成

## 2.課題

### (1) 学校図書館と公共図書館の連携

- ① 国は令和4年度から令和8年度を対象期間とする第6次学校図書館計画を策定し、全ての公立小中学校において「学校図書館図書標準」※1の達成を目指しているが青森県は全国的にも低い状況にある。「図書標準達成」だけを目標にすると資料の更新は遅れる傾向があるため、整った環境を保つよう、学校図書館担当者と村民図書館との意見交換を継続しながら達成を目指すこと。
- ② 村民図書館と小学校や中学校、高校の学校図書館に所蔵している資料情報を共有すること。
- ③ 双方が地域交流の場所として活用されるように協力すること。(村民図書館の利用者も学校図書館を利用できるようにするなど)

### (2) 読み聞かせボランティアの育成と支援

- ① 多様な子どもたちや、日本語を母国語としない子どもたちにも受け入れられるようにボランティア会員がスキルアップする機会を提供すること。
- ② 会員の高齢化や減少に対応するため、若い世代を育成していくこと。

### (3) 幼少期からの家庭での読み聞かせの浸透

- ① 乳幼児期のスキンシップや遊びをまじえた親子関係を作る取組、家庭において読書に対する興味や関心を引き出すような事業を展開すること。
- ② こどもの発達段階に応じて、紙媒体と電子媒体を本人が柔軟に選択できるようにすること。

※1 学校図書館図書標準：1993年に当時の文部省が目標として設定した「公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準」で、学級数を基準に蔵書数が決定します。

村民文化祭にて 図書館フェスティバル①



村民文化祭にて 図書館フェスティバル②



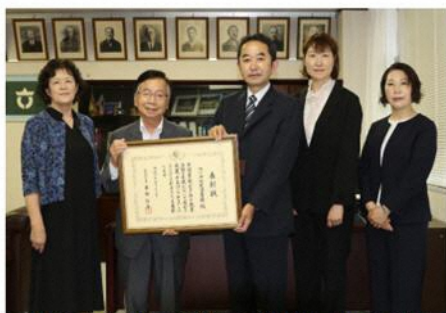
ブックスタート



令和4年 優秀実践図書館を受賞

子どもたちへの読書活動支援が認められる

村民図書館が文部科学大臣表彰



(左から) 橋本博子教育長、戸田村長、佐々木館長、司書の貝塚さん、佐藤郁子さん

「子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受けた村民図書館（佐々木厚志館長）が7月6日、戸田衛村長に受賞を報告しました。この表彰は特色のある優れた読書活動を行っている学校、図書館、団体・個人に贈られるものです。

村民図書館では、読書活動支援としてこども園や小・中学校などへ巡回配本の実施、子どもの読書週間に合わせたイベントや読書感想文コンクールの開催など、多くの子どもたちが読書に触れる機会を設けてきました。

司書の貝塚真登花さんは「図書館開館25周年の節目に、表彰状をもらうことができすごく良かった。高校生の利用者が少ないので、もっと図書館に来てもらえるよう工夫していきたい」と喜びと抱負を語りました。

写真：広報ろっかしょ 2022年8月号より掲載

## 第3章

## 基本方針

---

## 第3章 基本方針

### 1. デジタル化社会に対応した読書環境の整備

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっている時代において、こどもたちは自身の可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくことが求められます。

こうしたこどもたちの資質や能力をはぐくむ上で、読解力や想像力、思考力、表現力を養う読書活動の推進は不可欠です。こどもたちは読書を通じて多くの知識を得たり、多様な文化への理解を深めたりすることができます。また、心に残る名作などの文学作品、自然科学や社会科学の書籍や新聞、図鑑等の資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや、好奇心や探求心を得ることができます。

それにより、読むこと自体の楽しさ、充実感、満足感を得ることが重要です。こどもの頃のそのような体験は、生涯にわたる学習意欲の充実へつながります。それは、将来、その体験をこどもたちと共有していきたいという動機となり、世代を超えた読書活動の推進の循環が形成されることが期待されます。

そのため、多様なこどもたちの読書の機会の確保と、こどもたちの健康や発達段階等に配慮しつつ、学校と図書館のデータやデジタル技術を活用して、利用者（個人・コミュニティ）のニーズに応え、サービスに努めます。

### 2. 多様なこどもたちの読書機会の確保

特別支援学校や、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒、小・中・高等学校の通常の学級に在籍しながら特別な支援を受けている児童生徒は増加しています。

また、日本語指導を必要とする児童生徒、相対的に貧困状態にあるとされるこども、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っているこどもたちも存在します。

読書活動の推進にあたっては、多様なこどもたちを受容し、それに対応した取組を行うことが重要であり、全てのこどもたちの可能性を引き出すために、個別最適な学びと協働的な学びの充実、読書機会の確保に努めることが重要です。

読書バリアフリー法を踏まえ、電子書籍等の導入、日本語能力に応じた支援

を必要とする子どもたちのための多言語対応等を含め、学校図書館の整備を進めていきます。

### 3. こどもの視点に立った読書活動の推進

こどもがそれぞれ好きな本を選択し、好きな時間に、好きな場所で、主体的に読書活動を行えるように努めます。アンケート等、様々な方法で多様なこどもの意見を取組に反映させる等、こどもの視点に立った読書活動の推進に努めます。

#### 【読書に関する発達段階ごとの特徴】

平成 30 年「子どもの読書活動推進に関する有識者会議論点まとめ」より

##### ① 就学前（幼稚園、保育所、認定こども園等）の時期（おおむね 6 歳頃まで）

乳幼児期には、周りの大人から言葉を掛けてもらったり、乳幼児なりの言葉を聞いてもらったりしながら言葉をしだいに獲得するとともに、絵本や物語を読んでもらうこと等を通じて、絵本や物語に興味を示すようになる。さらに様々な体験を通じて、イメージや言葉を豊かにしながら、絵本や物語の世界を楽しむようになる。

##### ② 小学生の時期（おおむね 6 歳から 12 歳まで）

- ・ 低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙の量が増え、文字であらわされた場面や情景をイメージするようになる。
- ・ 中学年になると、最後まで本を読み通すことができるこどもと、そうでないこどもの違いが現れ始める。読み通すことができるこどもは、自分の考え方と比較して読むようになる。
- ・ 高学年では、本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始める一方で、この段階で発達がとどまったり、読書の幅が広がらなくなったりする者が出てくる場合がある。

③ 中学生の時期（おおむね 12 歳から 15 歳まで）

多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになる。自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになる。

④ 高校生の時期（おおむね 15 歳から 18 歳まで）

読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになる。

なお、こどもの発達是多様であり、個々のこどもの状況を十分に勘案した上で、乳幼児期から切れ目ない個別な読書活動の推進を目指す必要があります。



## 第4章 こどもの読書活動の推進方策

---

## 第4章 こどもの読書活動の推進方策

### 1. 家庭

こどもの読書習慣は日常の生活を通して形成されるものであり、読書が生活の中に位置付けられ継続して行われるよう、保護者はこどもの読書活動の機会及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たしていくことが求められます。そのためにはまず、乳幼児への読み聞かせの「ブックスタート」や、おはなし会への参加など保護者が読書に対する理解を深め、自ら読書に親しむことが大切です。

具体的には「家読 うちどく」のように、大人（保護者）からこどもへの読み聞かせのほか、こどもから大人（保護者）への読み聞かせを行うことや、こどもと一緒に図書館へ行って本を読む、のように、こどもが読書に親しむきっかけを作ることが望ましいと考えます。

家庭における読書活動に関しては、多様な家庭状況に配慮し、図書館、学校、保健センター、民間団体、民間企業など様々な機関が協力、連携して社会全体で支えていくことが必要とされています。

### 2. 図書館の役割

図書館は図書館法及び、「図書館の設置および運営上の望ましい基準」等に基づき地域における読書活動の推進に努めます。

- ① 乳幼児と保護者に対するサービス…………… おはなし会、展示資料の工夫
- ② 児童、青少年と保護者に対するサービス…………… おはなし会、展示資料の工夫
- ③ 障がい児と保護者に対するサービス…………… 手話、字幕入り映像の提供、介助
- ④ 日本語を母国語としないこども、保護者に対するサービス…………… 利用案内の工夫
- ⑤ 図書館への来館が困難なこども、保護者に対するサービス…………… 事業内容の工夫
- ⑥ ボランティア活動等の促進…………… 代読サービスなど、活動の機会を提供
- ⑦ 多様な学習機会の提供…………… 読書の講座、相談会、学習機会の提供
- ⑧ 運営状況に対する評価…………… 点検及び評価の実施

### 3. 図書館の取組

#### (1) 多様な子どもたちの読書機会の確保

読書バリアフリー法に基づき、障がい者用トイレや案内掲示、拡大鏡などの設置、電子書籍を扱う団体等との連携、情報提供などのサービスに努めることが必要です。

#### (2) デジタル社会等に対応した読書環境の整備

電子書籍を扱う公立図書館はまだ多くありませんが、子どもが端末等で利用できる学校向けの副読本のデジタル化や、地元につながる昔話を地元の人が語る音源等のコンテンツの作成は活用されることが期待できます。

#### (3) こどもの視点に立った読書活動の推進

現代の子どもたちは、複雑化する社会の中で、多様な背景を持っており、塾や部活動に時間を割く子どもが多く、事業を開催しても参加者を募るのが難しくなっています。そのため、子どもからアンケート等でサービスの改善を図ることや、児童、生徒の要望を把握し、事業の充実を図ります。

#### (4) 司書及び司書補の資質向上

司書及び司書補は、児童、青少年用図書をはじめとする資料の選択、収集、提供、読み聞かせ会など、こどもの読書推進に資する取組の企画、実施についての知識を深める必要があります。

さらに、アクセシブル(※1)な資料及び電子書籍等の整備、提供に努めるため、職員研修への参加や関係者からの意見聴取を行うことが重要です。

(※1)「利用しやすい」という意味で、高齢者や障がいのある人など、すべての人が情報やサービス、施設などを容易に利用できる状態やそのための配慮を指します。また建物にスロープがある、広い通路がある、ホームページの案内等が理解しやすい、などが含まれます。

### 4. 学校

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っています。学校図書館は可能な限り児童、生徒や教職員が最大限自由に利活用できる環境を整える必要があります。

また、家庭でもない、学校でもない落ち着いた空間として、学校図書館が見直されており、子ども達が立ち寄りやすく、心地よい場所とすることで、本に触れるきっかけが生まれる可能性があります。

そのためには、児童生徒の登校時から下校時までの開館に努めるなど、読書の場、学習の場を提供することが大切です。その際、専門職の学校司書を配置することが重要ですが、不在期間は地域の人々の協力や、図書館ボランティア、公共図書館職員の協力を得るなど、こどもが利用しやすい環境にするための工夫が必要です。

このように常時開館、という理想的な環境を作れない学校の現状をふまえると、こどもの居場所のひとつとして「保健室」がその役割を果たしていると考えます。今後は養護教諭と図書館との情報交換や、保健室の一角に図書コーナーを設け、定期に入れ替えする配本サービスを提案していきます。

また、取組の課題としたように、資料の更新を見送ることがないよう、蔵書の点検、古い図書の処分手続きの簡素化、分類順に整頓することなど、こども達が使いやすいと感じる環境作りの支援を継続します。

図書館見学①



図書館見学②



令和7年度六ヶ所村こどもの読書推進  
に関する状況調査



## 令和7年度六ヶ所村こどもの読書活動推進に関する状況調査

調査目的 村内のこどもの読書傾向や、幼児のこどもを持つ保護者の意識を把握し、基礎資料とする

調査方法 村内こども園、小、中学校、高等学校を經由した調査回答。  
(六ヶ所村電子申請届出システム)

対 象 ①小学2年生、5年生、中学2年生、高校2年生  
②こども園4歳児の保護者  
③学校図書館担当者

調査時期 令和7年7月1日～令和7年8月31日

対象者		回答率
小学2年	58人	82.8%
小学5年	38人	62.2%
中学2年	55人	84.6%
高校2年	30人	100.0%
4歳児保護者	29人	65.9%

## 1.小学2年生、5年生、中学2年生、高校2年生アンケート、分析

1.あなたは、読書が好きですか？				
答え	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
小2	33	13	6	6
小5	11	15	10	2
中2	14	24	13	4
高2	4	16	7	3
合計	<b>34.3%</b>	<b>37.6%</b>	<b>19.9%</b>	<b>8.3%</b>

読書が好きかどうかは、どちらかといえば好きを合わせると全体の71.9%  
嫌いどちらかといえば嫌いは28.2%

2.「好き」と「どちらかといえば好き」とこたえた人にききます。なぜ読書が好きになりましたか？						
答え	おもしろい本をみつけたから	学校の読書の時間がたのしかったから	学校の図書館を利用したら好きになった	村の図書館を利用したら好きになった	タブレットで読書したら好きになった	その他
小2	27	4	4	6	5	0
小5	20	1	1	0	1	3
中2	33	1	0	0	0	4
高2	17	2	0	0	0	1
合計	<b>74.6%</b>	<b>6.2%</b>	<b>3.8%</b>	<b>4.6%</b>	<b>4.6%</b>	<b>6.2%</b>

その他の理由	
小5	読書感想文でいい賞とれたから。
	家のタブレットの小説を見て好きになった。
中2	夢中になれる本があったから
	小説を買って読んだらだんだん興味がでた。
高2	友人に勧められ、その本がきっかけで好きになった。

「おもしろい本をみつけたから」という回答が一番多く、本との出会いの大切さを実感する結果となりました。  
「感想文で賞をとったから」という回答があり、図書館事業の感想文コンクールを継続する大切さを実感しました。

3.この1か月にスマートフォンやタブレットで電子書籍を読みましたか？

答え	読んだ	読まなかった
小2	55	3
小5	21	17
中2	17	38
高2	14	16
合計	<b>59.1%</b>	<b>40.9%</b>

4.質問3で読んだを選んだ人だけ教えてください。だいたい1か月に何冊くらい読みましたか？

答え	1~5冊	6~10冊	11~20冊	20冊より多い
小2	10	20	9	16
小5	14	3	2	2
中2	9	5	0	3
高2	11	2	0	1
合計	<b>41.1%</b>	<b>28.0%</b>	<b>10.3%</b>	<b>20.6%</b>

どの年代も1~5冊が一番多いことがわかります。また、20冊以上読んでいることも予想以上に多かったです。

5.質問3で読まなかったを選んだ人だけ教えてください。読まなかった理由にあてはまるもの全てに○をつけてください。

答え	音楽・ゲーム・動画に時間を使うから	勉強・部活動・塾・習い事で忙しいから	スマートフォンのやり取りに時間を使うから	どんな本を読んでいるかわからないから	その他
小2	3	0	0	0	0
小5	11	4	1	4	1
中2	34	20	17	5	5
高2	9	6	3	1	4
合計	<b>77.0%</b>	<b>40.5%</b>	<b>28.4%</b>	<b>13.5%</b>	<b>13.5%</b>

その他の理由	
小5	スマホなどを使うと目が悪くなるから
中2	本が好きじゃないから／紙のほうがいいから
高2	書籍は電子ではなく本で読みたいから

中2は毎日のスケジュールがとてもハードではありますが、音楽、動画閲覧にも時間を使っていることがわかります。

6.あなたは昨年度と比べて本を読むようになりましたか？

答え	読むようになった	読まなくなった	変わらない
小2	33	6	19
小5	16	9	13
中2	27	2	26
高2	2	6	22
合計	<b>43.1%</b>	<b>12.7%</b>	<b>44.2%</b>

7.あなたはどのようにして本を手に入れることが多いですか？

答え	買う	学校から借りる	家にある本を読む	公共(村民)図書館から借りる	放課後塾にある本を読む	友達・家族から借りる	その他
小2	8	27	10	6	7	0	0
小5	15	17	3	1	1	0	1
中2	33	13	3	1	0	3	2
高2	27	0	2	0	0	1	0
合計	<b>45.9%</b>	<b>31.5%</b>	<b>9.9%</b>	<b>4.4%</b>	<b>4.4%</b>	<b>2.2%</b>	<b>1.7%</b>

8.あなたはこの1年間で村民図書館を利用したことがありますか？(勉強するためでもあるにつける)

答え	ある	ない
小2	42	16
小5	11	27
中2	21	34
高2	5	25
合計	<b>43.6%</b>	<b>56.4%</b>

年間で一度も村民図書館に来たことが無い子どもがいることは、大変残念な結果でした。特に中学、高校生の利用が少なく、図書館までの距離的な理由に関係があるため、開館当初から変わらない課題です。

9.あなたは学校の授業以外で村民図書館から本を借りたことがありますか？

答え	ある	ない
小2	32	26
小5	19	19
中2	25	30
高2	8	22
合計	<b>46.4%</b>	<b>53.6%</b>

10.ないを選んだ人だけ教えてください。当てはまる理由に○をつけてください。(複数回答可)

答え	興味が ないから	村民図書館 は1人で 行けない から	勉強・部活 動・塾・習 事て忙しい から	どんな本を 読んでいい か分からな いから	その他
小2	8	12	6	0	0
小5	8	5	4	0	3
中2	23	10	8	3	4
高2	12	4	7	1	2
合計	<b>52.6%</b>	<b>32.0%</b>	<b>25.8%</b>	<b>4.1%</b>	<b>9.3%</b>

その他の理由	
小5	場所が分からない／行く余裕がない
中2	行けるタイミングがなかなかない／マンガを読むから
高2	家から図書館まで遠いし、筋トレをするから

年間一度も村民図書館に来たことが無いということの理由は、興味が無い、1人では行けない、ということでした。

特に小2の場合は、行きたいけれど行けないのではないかと残念な結果です。

11.あなたは休みの日にスマートフォンやタブレットを何時間使いますか？

答え	1時間 くらい	2時間 くらい	3時間 くらい	3時間 以上	スマート フォン やタブ レット を持っ てい ない
小2	19	10	10	11	8
小5	5	9	4	16	4
中2	2	5	18	24	6
高2	0	0	8	22	0
合計	<b>14.4%</b>	<b>13.3%</b>	<b>22.1%</b>	<b>40.3%</b>	<b>9.9%</b>

中2、高2の子ども達は3時間からそれ以上の時間、スマートフォンを使用していることが分かります。

12.マンガについてあてはまるものに○をつけてください。

答え	毎日読む	時々読む	読まない
小2	6	28	24
小5	9	13	16
中2	13	23	19
高2	6	17	7
合計	<b>18.8%</b>	<b>44.8%</b>	<b>36.5%</b>

※問12で毎日読む、時々読むと回答した115人だけ質問15まで回答  
13.あなたはだいたい1か月間でマンガを何冊読みましたか？

答え	1~5冊	6~10冊	11~20冊	20冊以上
小2	18	4	3	9
小5	10	5	2	5
中2	18	7	4	7
高2	12	6	4	1
合計	<b>50.4%</b>	<b>19.1%</b>	<b>11.3%</b>	<b>19.1%</b>

14.マンガを読むときは何で読みますか？あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数回答可)

答え	紙の本	スマートフォンまたはタブレット	読まない	どちらも利用する
小2	28	3	0	3
小5	16	3	0	3
中2	22	3	0	11
高2	7	7	7	9
合計	<b>63.5%</b>	<b>13.9%</b>	<b>6.1%</b>	<b>22.6%</b>

小学生、中学生は紙でマンガを読んでいることがわかりました。  
問11から、中学生、高校生はスマートフォンを使う時間が多いが、マンガを読むためではないことがわかります。

15.よく読むマンガの種類であてはまるもの全てに○をつけてください。(複数回答可)

答え	ファンタジー	スポーツ	恋愛	ヒーロー	青春	ホラー
小2	7	9	3	9	1	12
小5	12	7	5	8	3	3
中2	25	19	24	17	20	10
高2	13	12	12	10	11	8
合計	<b>49.6%</b>	<b>40.9%</b>	<b>38.3%</b>	<b>38.3%</b>	<b>30.4%</b>	<b>28.7%</b>

答え	友情	家族	推理	笑い	歴史	仕事	社会生活
小2	2	6	4	3	2	3	2
小5	6	3	3	3	1	0	0
中2	11	8	6	6	8	4	3
高2	6	3	2	2	2	2	3
合計	<b>21.7%</b>	<b>17.4%</b>	<b>13.0%</b>	<b>12.2%</b>	<b>11.3%</b>	<b>7.8%</b>	<b>7.0%</b>

16.図書館では情報を発信していますが見たことがあるのはどれですか?(複数回答可)

答え	広報ろっかしよ	図書館ホームページ	ポスター	村公式ライン	見たことはない
小2	1	5	7	3	42
小5	1	2	3	0	32
中2	17	10	11	2	25
高2	14	2	3	5	13
合計	<b>18.2%</b>	<b>10.5%</b>	<b>13.3%</b>	<b>5.5%</b>	<b>61.9%</b>

## 1. <<分析>>

- 村の小学生、中学生は学校生活中には、本をよく読んでいることがわかりました。村では、昨年から1人1台のタブレット端末を子ども達に支給したことで、「手軽に読書する」という機会を与えています。25 ページ問6では、「1年前に比べて読書をするようになった」は 43.1%でした。読書の方法は、日常生活や年齢によって、紙の本か、タブレット等かを、子ども達が選択していくため、その経過を観察する必要があります。
- 中学生と高校生は、休みの日にスマートフォンやタブレットを3時間からそれ以上利用していて、音楽、ゲーム、動画に利用していることが分かります。
- 中学生が図書館を利用しない理由で最も多いのは、「興味がないから」ということがわかりました。日常生活で図書館へ足を運ぶ時間的余裕がないこと、距離的な問題があることがうかがえます。
- 今回マンガについての質問を初めて設けましたが、その理由は「マンガを読むことも、自ら読書することもが多い」という見解(※1)に基づいて、村の子ども達の実態を知るために行いました。

大人が思う以上に子どもは、マンガから前向きな力を受け取っていると考えます。学びのきっかけ、想像力、共感力の養成、読書習慣の入口など、娯楽だけではなく、成長を支える力があると言われてしています。医療や科学、歴史などを誰にでもわかりやすく伝える日本のマンガ技術は、世界でも評価が高く、他言語を身につけるにも適しているため、国や世代を超えた存在となっています。

また、令和元年度から令和2年度の全国一斉臨時休業が、自宅学習の難しい小学低学年や、中学校、高等学校に進学した直後の学年の読書習慣の形成に影響を与えたのではないかと、と言われてはいますが、その時期に子ども達はマンガや雑誌を読む時間は増えたと言われてはいます。※2
- 公共図書館や学校図書館ではどちらかという所蔵に敬遠されてきたマンガですが、今後はますます効果的に利用されていき、その捉え方は変化していくと考えます。

※1 令和4年12月発行「子どもの読書活動推進に関する有識者会議 論点のまとめ」より、令和4年度子どもの読書活動の推進に関する有識者会議(第4回)によると、「本を読むことと漫画、雑誌を読むことは、トレードオフの関係はなく、本をよく読む児童生徒は漫画をよく読んでいる傾向がある。」とされている。

※2 濱田秀行・秋田喜代美 2022「小中高校生の読書活動に対する新型コロナウイルス感染症の影響:不読率に着目して」

## 2.こども園4歳児保護者アンケート、分析

1.ご自分のお子さんは読書が好きな方だと思いますか？			
答え	はい	いいえ	わからない
	20	7	2
	<b>69.0%</b>	<b>24.1%</b>	<b>6.9%</b>

自分の子どもが喜ぶ姿を見ているためか、読書が好きだろうという感覚を保護者は持っていることが分かります。

2.ご家庭で読み聞かせをしていますか？				
答え	毎日	時々	以前はしていた	していない
	5	16	6	2
	<b>17.2%</b>	<b>55.2%</b>	<b>20.7%</b>	<b>6.9%</b>

毎日、時々を合わせると72.4%が読み聞かせをしています。

3.絵本とスマートフォンやタブレットのどちらで読み聞かせする方が多いですか？		
答え	絵本	スマートフォンやタブレット
	22	5
	<b>81.5%</b>	<b>18.5%</b>

スマートフォンやタブレットが普及していますが、読み聞かせをするときは、紙の絵本を使っている保護者が多い結果となりました。

4.本の読み聞かせは何歳から行いましたか？						
答え	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳 その他
	17	7	2	1	0	0
	<b>63.0%</b>	<b>25.9%</b>	<b>7.4%</b>	<b>3.7%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.0%</b>

読み聞かせを0歳から1歳までに行っている家族が多いことが分かります。

5. 主にどなたが読み聞かせをしますか？(していましたか?)					
答え	父	母	祖父母	兄弟姉妹	その他
	3	23	1	0	0
	<b>11.1%</b>	<b>85.2%</b>	<b>3.7%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.0%</b>

読み聞かせは主に母親という結果は、1次、2次策定と同じ結果となりました。

6. 保護者の年齢を教えてください。				
答え	20歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	その他
	7	16	6	0
	<b>24.1%</b>	<b>55.2%</b>	<b>20.7%</b>	<b>0.0%</b>

7. 保護者の方は、大体1ヶ月に本をどのくらい読みますか？					
答え	0冊	1冊～2冊	5冊くらい	10冊くらい	20冊より多い
	14	11	3	1	0
	<b>48.3%</b>	<b>37.9%</b>	<b>10.3%</b>	<b>3.4%</b>	<b>0.0%</b>

8. 保護者の方は、だいたい1ヶ月間に村民図書館をどの程度利用しますか？			
答え	毎週1回以上	月に1～2回	利用していない
	0	4	25
	<b>0.0%</b>	<b>13.8%</b>	<b>86.2%</b>

9. 図書館で実施している各種事業の情報を発信していますが、ご覧になったことがあるのはどれですか？(複数回答可)				
答え	図書館ホームページ	広報ろっかしよ	ポスター	村公式SNS
	3	22	11	2
	<b>10.3%</b>	<b>75.9%</b>	<b>37.9%</b>	<b>6.9%</b>

ほとんどの人が広報ろっかしよから情報を得ていることが分かります。今後は、SNSを利用した情報発信をしていきます。

## 2.「分析」

- 令和7年度現在村内の保育施設は、こども園4カ所となります。こどもの読書活動推進計画(第二次)策定時は保育所5施設、幼稚園1施設でした。その後、幼稚園は閉園し、保育所からこども園に変更となっています。
- 4歳児保護者の回答から、「自分のこどもは読書や読み聞かせが好きだろう」と認識していることが分かりますが、村民図書館に来る時間的余裕がないことや、子育ての忙しさなどから保護者の読書量はとても少ないという結果でした。
- 4歳児の保護者は、本の読み聞かせを「毎日している」、「時々している」を合わせると72.4%で、第2次策定時は75.7%のため、3.3%の減となりました。
- 読み聞かせの時はスマートフォンやタブレットよりも「紙の絵本」を使って読み聞かせしている割合が多い結果となりました。
- 読み聞かせを始めた年齢は、0歳からの保護者は63.0%と多く、第2次策定時では24.0%のため、乳幼児期から読み聞かせをする保護者が39.0%増加したことが分かりました。

中学生の職場体験で 読み聞かせの実践



### 3. 学校図書館担当者アンケート、分析

令和7年4月1日現在

		児童生徒数	クラス数	1日の学校図書館開館時間	蔵書のデータベース化の有無	計画的な蔵書の廃棄、更新の有無	家読の勧め	朝読の有無
小学校	泊小	83	8	2時間以上	○	○	○	○
	尾駸小	158	10	2時間以上	○	○	○	○
	南小	70	8	2時間以上	○	○	×	○
	千歳平小	57	8	1時間未満	○	○	○	○
中学校	泊中	50	5	1時間以上 2時間未満	○	○	×	○
	第一中	82	5	2時間以上	×	○	×	○
	第二中	70	5	1時間未満	○	○	×	○
高校	六ヶ所高校	97	3	1時間以上 2時間未満	○	○	×	×

#### 《こどもの読書活動推進に関して実施している取組、意見など》

(回答は学校図書館代表者)

- ① 国語科の授業で「レビュー大賞」を実施する予定。
- ② 読書メーター(※1)にならない、255字以内で選んだ図書の批評文を書き、掲示。
- ③ 読書記録カードの記入。
- ④ 朝読書で読んでいる本について、短い感想文を書いて提示。
- ⑤ 地域の方や校内の職員で読み聞かせを行っている。
- ⑥ うちどくカードを作成し、長期休暇中に2度、感想文の宿題を提出。
- ⑦ 週に1度は必ず学校図書館を利用するようにしている。
- ⑧ 全校児童分の図書ポイントカードを作っている。
- ⑨ 月に1回、朝の15分間で村の図書ボランティアによる読み聞かせを行い、年に2回教職員による読み聞かせを行っている。
- ⑩ 「読書カード」に読んだ本を記入し、年間目標(低学年は100冊以上、中学年は8000ページ以上、高学年は10000ページ以上)を達成できた児童には本のプレゼント。
- ⑪ 図書委員会による読み聞かせを年2回実施している。
- ⑫ 図書委員会によるおすすめの本の紹介活動を年に2回実施している。(同じ回答3件)
- ⑬ 村の図書ボランティアの方による読み聞かせを年9回実施している。
- ⑭ 読書感想文コンクールに参加自由にして募集している。
- ⑮ タブレットによる電子書籍を導入している。(同じ回答3件)
- ⑯ 教室近くのホールに「読書コーナー」としてテーブル、イス、ごぎを設置し、自由に読書ができる環境を作っている。
- ⑰ 各教室に学級文庫として学校図書館の本を移動し、自由に読書できる環境にしている。
- ⑱ あおもりの中学、高校生による「大切なあなたへ薦める青春の1冊」への応募。

(※1)読書メーターとは日々の読書量を簡単に記録管理するアプリ。感想やレビューを読むことができる。

### 3.《分析》

- 学校図書館の開館時間は中学校、高校では2時間以下が多いことが分かります。  
また、朝読の時間を設けていない高校では読書をする時間、学校図書館を利用する時間が少なくなっていると感じます。
- 図書委員会の活動については、本の紹介活動が活発に行われていることが分かります。
- 各教室に選書した本を置くことや、ホールに読書コーナーを設置するなど読書活動の工夫が感じられます。これは、学校図書館の開館時間が短いことや、選書に迷う子どもにも対応していると感じます。
- 小学校ではタブレットで電子書籍を読むことが読書の時間に実施されていることが分かりました。
- 高校生は、個人で電子書籍を使って読書する経験を持つ生徒もいることから、大人への過渡期にある高校生の興味、関心を探り、村民図書館の利用を促していきたいと感じました。
- 学校図書館の環境を整えるための計画的な蔵書の廃棄、更新については、図書館職員の協力を要請した学校へ何うよう支援を継続していきます。

#### 4. 図書館協議会委員からの意見まとめ

1. 「おもしろい本に出合えた」ことがきっかけで、読書を好きになることが多く、その出会うチャンスを作ることが大切だと思う。
2. 絵本作家やマンガ作家の講演会を聞いてみたい。
3. 図書館利用者が少ないのは、家から図書館までの距離の問題、移動図書館をすすめる。
4. ボランティア活動をする仲間を増やしてほしい。
5. こども達が本を読むことの楽しさを感じるためには、身近な大人の関わりが大切で、それらを感じられる取組を工夫してほしい。
6. 図鑑などの分野の書籍でも、子供の興味や好奇心に繋がるのであれば、良いのではないかと考えます。
7. 小、中学校では朝読書があり、決められた時間があるから読書の習慣が身につくと思う。
8. 図書館を利用したくとも「遠い」「一人では行けない」ので、スポーツ少年団の送迎バスに(便乗するなどして?)各学校から図書館へ通うことができる状況を作るのはどうか?
9. 4歳児ごろに絵本にたくさん触れていたならば、小学校に進学しても本への抵抗が減らせるかもしれない。
10. 子どもだけに限らず、親子また大人も含めての読書活動が活発になれる取り組みがされて行くといいと思う。
11. 学校は昼休みだけではなく、放課後にも学校図書館を使えるようになるといい。
12. 学校図書館の利用時間は意外に短いのだと感じた。
13. 学校の図書館は時間的な制約がある分、必要であれば村民図書館へと繋がり、継続して読書ができる環境が整っていけばいいのではないか。
14. 学習障害により、本をスムーズに読めない子もいると思うので、対応できる教材や機器があれば活用できるのではないか。
15. 有識者会議の論点のまとめに「本をよく読む児童生徒はマンガもよく読んでいる傾向がある」は大変興味深い。読むことの楽しさ、充実感を得ることが重要ということも確かにそうだなと納得させられる内容でした。
16. マンガは今も紙で読む人が多いことから、ぜひ、図書館で所蔵を増やして欲しい。そうすることで、今まで図書館に来なかった人への糸口になればいい。



図書館ボランティア

六ヶ所村おはなしの会「森のくまさん」



図書館ボランティア

六花おはなしの会



図書館ボランティア

泊地区図書サークル

資 料



## 資料:こどもの読書活動推進計画策定について(国、青森県、六ヶ所村)

こどもの読書活動をめぐる、国及び青森県と六ヶ所村のこれまでの主な動向は次のとおりです。

年 月	国・県・村	内容
平成13年	国	こどもの読書活動の推進に関する法律を公布、施行
平成14年	国	こどもの読書活動の推進に関する基本的な計画、策定
平成16年3月	青森県	青森県こども読書活動推進計画 策定
平成20年	国	こどもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第二次)策定
平成21年10月	六ヶ所村	六ヶ所村こどもの読書活動推進計画 策定
平成22年3月	青森県	青森県こども読書活動推進計画(第二次)策定
平成25年	国	こどもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)策定
平成27年2月	六ヶ所村	六ヶ所村こどもの読書活動推進計画(第二次)策定
平成27年3月	青森県	青森県こども読書活動推進計画(第三次)策定
平成29年	国	≪学習指導要領の告示≫平成31年までに幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校幼稚園部、特別支援学校小学部、中学部、高等学校、特別支援学校高等部の順番で全面实施 ①学校司書②言語能力の育成③学校図書館の計画的利用④自発的な読書の充実など。
平成30年	国	こどもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第四次)策定
令和元年	国	読書バリアフリー法の交付、施行 学校教育の情報化の推進に関する法律 交付、施行 GIGAスクール実現推進本部設置
令和2年2月	青森県	青森県こども読書活動推進計画(第四次)策定
令和4年	国	第6次学校図書館図書整備等5か年計画 策定 ①学校図書館司書の配備拡充、新聞の複数紙配備を図ることを示している。 ②学校教育情報化推進計画 策定
令和5年	国	こどもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第五次)策定
令和5年3月	青森県	第4次青森県生涯者計画 策定 ①電子書籍等の普及と視覚障がい者の読書環境の整備を推進することを示している。
令和7年2月	青森県	青森県こども読書活動推進計画(第五次)「読書で広がる あおもりっこの未来」
令和8年3月	六ヶ所村	六ヶ所村こども読書活動推進計画(第三次)策定予定

### 資料：六ヶ所村の小学校、中学校、高等学校創立年表

年号	学校名	統合状況
明治9年	泊小学校 創立	
明治10年	平沼小学校 創立	
明治11年	倉内小学校 創立	
〃	尾駮小学校 創立	
明治13年	鷹架小学校 創立	(昭和52年廃校)
明治31年	戸鎖小学校 創立	
明治33年	二又小学校 創立	
明治36年	出戸小学校 創立	(昭和53年尾駮小学校へ統合)
明治44年	中志小学校 創立	
昭和11年	笹原小学校 創立	
昭和15年	弥栄平小学校 創立	(昭和37年上弥栄小学校へ統合)
昭和22年	尾駮中学校 創立	(昭和38年より第一中学校)
〃	千歳小学校 創立	(昭和52年千歳平小学校へ統合)
〃	戸鎖中学校 創立	(昭和24年室ノ久保中学校と改称)
〃	泊中学校 創立	
〃	倉内中学校 創立	
〃	鷹架中学校 創立	(昭和38年より第一中学校)
昭和23年	平沼中学校 創立	
〃	出戸小学校石川分校 創立	(昭和41年廃校)
昭和24年	上弥栄小学校 創立	(昭和50年尾駮小学校へ統合)
昭和25年	出戸中学校 創立	(昭和39年第一中学校へ統合)
〃	中志中学校 創立	
昭和27年	千歳中学校 創立	
〃	二又中学校 創立	(昭和39年第一中学校へ統合)
昭和29年	千歳小学校豊原分校 創立	(昭和42年廃校)
〃	弥栄平中学校 創立	(昭和45年第一中学校へ統合)
昭和38年	第一中学校 創立 (鷹架・尾駮中を統合)	
昭和52年	千歳平小学校 創立	
昭和53年	県立六ヶ所高等学校 創立	
平成8年	第二中学校 創立 (倉内・平沼・中志中を統合)	
平成9年	六ヶ所村民図書館開館	
平成12年	笹原小は千歳平小へ統合	
平成16年	二又小は尾駮小へ統合	
平成18年	中志小は平沼小へ統合	
〃	室ノ久保中は第一中へ統合	
平成22年	戸鎖小は尾駮小へ統合	
平成23年	尾駮小学校 新校舎へ移転	
平成25年	南小学校 創立 (平沼・倉内小が統合)	
令和2年	第二中学校 千歳中学校 統合	
令和3年	泊小学校 泊中学校 併置化	

資料:村民図書館開館年から現在までの所蔵に対する児童書の割合

	児童書貸出冊数	蔵書総数	内児童書	児童書の割合	開館日数	備考
平成9年7/1	682	16,000	4,500	28.1%	—	県立図書館からの寄贈を含む
平成10年度	2,662	28,050	4,931	17.6%	209	
平成11年度	2,636	27,664	6,410	23.2%	283	
平成12年度	4,743	31,248	7,599	24.3%	283	
平成13年度	7,738	33,712	8,165	24.2%	285	
平成14年度	8,581	36,756	9,117	24.8%	284	
平成15年度	9,500	39,482	9,842	24.9%	286	
平成16年度	10,907	38,003	10,222	26.9%	284	ここまで18時閉館
平成17年度	10,124	40,496	10,748	26.5%	294	19時閉館 祝日開館開始
平成18年度	10,272	42,904	11,380	26.5%	299	開館10周年
平成19年度	13,592	43,087	12,168	28.2%	301	
平成20年度	14,197	44,864	12,412	27.7%	301	
平成21年度	16,053	45,850	12,701	27.7%	301	第1次策定
平成22年度	16,177	43,399	12,838	29.6%	301	
平成23年度	17,222	46,332	13,390	28.9%	300	
平成24年度	16,440	46,531	13,942	30.0%	302	
平成25年度	16,042	45,806	13,769	30.1%	299	
平成26年度	17,261	46,381	13,634	29.4%	300	
平成27年度	15,769	47,328	15,005	31.7%	302	第2次策定
平成28年度	14,466	47,224	15,377	32.6%	244	開館20周年 改修工事
平成29年度	16,033	47,463	16,162	34.1%	300	
平成30年度	19,465	48,737	16,087	33.0%	297	図書館システム更新、 貸出5冊へ
令和1年度	17,811	48,024	16,391	34.1%	302	
令和2年度	14,234	46,635	16,669	35.7%	287	コロナ流行により休館

令和3年度	12,683	48,072	17,039	36.5%	227	コロナウイルス流行のため休館
令和4年度	14,732	48,275	15,977	33.2%	301	
令和5年度	14,085	48,841	15,955	32.7%	300	
令和6年度	14,269	49,398	16,418	33.2%	298	図書館システム更新
令和7年度						第三次策定
令和8年度						開館30周年

平成9年7月 開館時の蔵書量は、県立図書館からの寄贈本を含む

平成17年度 閉館時間を1時間延長し19時までとする

平成18年度 開館10周年

平成21年度 六ヶ所村こどもの読書活動推進計画（第一次）発行

平成27年度 六ヶ所村こどもの読書活動推進計画（第二次）発行

平成28年度 開館20周年  
スワニーの改修工事に伴い、床の張替え、絵本コーナーの仕切り壁を設置

平成30年度 貸出冊数を各種3冊から5冊に変更する

令和 2年度  
令和 3年度 コロナウイルス流行のため休館日を設ける

令和 4年度 文部科学大臣より子供の読書活動において「優秀実践図書館」受賞



## 資料：学校図書館と各地区配本回収サービス



### ○図書館から配本サービスを実施している施設

- |         |                       |
|---------|-----------------------|
| 尾駱地区    | ○尾駱小、放課後塾、第一中、おぶちこども園 |
| 泊地区     | ○泊小、放課後塾、泊中、泊こども園     |
| 平沼、倉内地区 | ○南小、放課後塾、第二中、南こども園    |
| 笹崎地区    | ○千歳平小、放課後塾、千歳平こども園    |

### ○図書館ボランティア活動場所

六ヶ所おはなしの会「森のくまさん」：尾駱小朝読書と各こども園へ出張おはなし会

六花おはなしの会：千歳平小朝読書と放課後塾、南小朝読書、と放課後塾へ出張おはなし会

泊地区図書サークル：泊小学校朝読書読み聞かせ

## 図書館協議会委員名簿



## 図書館協議会委員名簿

令和8年3月1日現在

No.	氏 名	役 職
1	尾 崎 修 一	委員長
2	金 谷 弘 美	副委員長
3	田 中 都 々 子	委 員
4	三 浦 美 子	委 員
5	村 松 由 美 子	委 員
6	葛 西 奈 栄 子	委 員



---

## 六ヶ所村こども読書活動推進計画（第3次）

令和8年(2026年)3月発行

発行／六ヶ所村教育委員会

編集／六ヶ所村民図書館

図書館HP／<https://www.rokkasho-tosho.jp/>

---